

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700501
法人名	(有)和みの会
事業所名	グループホーム 春のうらら
所在地	愛媛県大洲市新谷乙917番地1
自己評価作成日	平成 22年 9月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

居室より広いベランダに出られ、裏庭で自由に散歩や野菜の収穫ができ自由な暮らしができます。外にも利用者3人が毎日自由に散歩されベンチでの休息が地域の方との交流の場となっています。夏には、家族と共にバーベキュー大会、花火、11月には、文化祭など多数の行事を行って楽しんで頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者と共に地域の一員として行事に参加したり、保育園や小・中学校との交流に努め、地域との連携を積極的に図っている。運営推進会議に小学校長や区長の参加を新たに得て、出された意見や要望、アイデアを活かしてサービスの向上に取り組んでいる。災害に備えて訓練を2か月毎に実施し、夜間も含めて様々な想定で避難、防火訓練を行っている。共有空間のウッドデッキは利用者の楽しみとくつろぎの場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**  
  
**ーサービス向上への3ステップー**

事業所名	グループホーム春のうらら
(ユニット名)	菜の花
記入者(管理者)	
氏名	箕島美保
評価完了日	平成22年9月5日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設の時に掲げた理念を職員全員で考え、再構築して皆で共有し実践している	
			(外部評価) 職員全員で話し合いを行い、地域密着型サービスの重要性を意識した簡潔な理念を作成している。管理者と職員は、日々、理念を意識して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区の運動会、公民館まつりに参加し、又散歩時途中にベンチを設置しており近所の方々の語らい等積極的に交流している	
			(外部評価) 日常的に散歩や買い物に出かけ、近隣の住民と挨拶を交わしている。地区の運動会や2年おきの公民館祭り、花祭りなど地域の行事に参加し、町内清掃の奉仕に加わっている。また、保育園児の訪問、中学校の職場体験の受け入れや小学校の運動会に招待されるなど、様々な機会を通して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 近所の独居老人宅を訪問したり、行事にお誘いしています。運営推進会議の地域住民代表者も家族に認知症の理解を深める為理解や接し方を話しています。しかし、将来的にGHで培った事を地域住民の方々に発信して行きたいです	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、公民館長様が行事のお知らせしてくれます。公民館は、2階で催しがあるので活用できてないこともあります。歩ける方だけでも参加できるように実践して行こうと思います	
			(外部評価) 市の職員や地域住民代表者、利用者、利用者家族、新たに小学校校長と区長の参加を得て、2か月毎に開催している。事業所の現状と課題、外部評価の結果と取り組みを議題に挙げて話し合い、参加者から意見やアイデアを貰ってサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけ書類を持参して市町村の担当者と話す機会を設け相談、助言をして頂いています。	
			(外部評価) 介護保険申請時に出かけて相談したり、事業所の取組みを伝えている。また急ぎの時は電話で話し協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 家庭のようにドアをオープンにしております。身体拘束になるもの具体的な例を掲げて勉強しております	
			(外部評価) 毎月開催のスタッフ会議で勉強会を持ち、禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為について正しく理解している。玄関はセンサーはつけているが施錠しておらず、利用者は自由に散歩に出かけている。必要に応じて職員が付き添うこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 「虐待の防止」の勉強会を行い、職員同士が監視人となり、虐待防止に努めています。時々不適切な言葉があり職員同士で注意し合っています	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 年1回研修を行っています。機会を見て、家族にも成年後見制度があることをパンフレット等同封して周知して行きたいです	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には時間をかけて説明しています。また報酬改訂については、文章を出しています。又、家族会の時を利用して説明しています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) アンケートを家族から取り、満足度や要望、意見等を聞き今後の運営に生かすようにしています	
			(外部評価) 重要事項説明書に苦情申立先を明記し、玄関にご意見箱を設置している。家族を対象に無記名でアンケートを実施して、家族の意向や不安を把握し直接出される要望と併せて運営に反映させている。また、事業所の行事の時にも参加してもらった家族の意見、要望を聞き取る等積極的に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 特に時間は取っていないが、スタッフ会（月1回）の時を利用して、意見を聞いたり報告したりしている  (外部評価) 施設長は、毎月開催しているスタッフ会議に出席し職員の意見や提案を聞いている。また、年数回の個人面談で意見や要望を聞く機会を持ち、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 小さな事業所（1つ）なので、十分な事は出来ないが一人ひとりの個性を見抜き職員の努力に報いる様に努めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 国家資格取得→実践者研修→リーダー研修→管理者研修とステップアップを応援している	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 日本認知症GH協会、愛媛県GH協会に入会し、研修会に参加したり、市のGH担当者会に参加したりしています	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 1カ月前に入居された方は、病院をめまぐる転居されGHに入居され不安定な気持ちだったと思うが娘さんが度々ホームに泊まれ、毎日の面会で安心に繋がっていますまた、情報収集や要望を聞くようにして家庭的な暮らしができるように努めています	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人様が不安にならないように面会を多くして頂き、要望、困っていることなど出来る限り対応し関係づくりに努めています	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族の実情、要望を基に事業所として出来る限りの対応をしています。必要に応じて他のサービス（マッサージ、介護タクシー）などを利用しています	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の立場を尊重しながらお互いの役割を認めあって暮らしています。いつも「感謝、助け合い」の気持ちを忘れないようにお礼の言葉を必ずいうようにしています	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 遠距離の方は、電話や手紙などを送っています。疎遠の方は、季節ごとに衣類の交換を頼んだり、行事に参加して頂くようお誘いしています。色々工夫しながら、疎遠にならない努力をしています	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個人のお友達は、時々面会にこられています。お見送りの際、「また、良かったら来て下さいね」と声かけし、関係が途切れないようにしています。場所については、ふるさと訪問や馴染みの菓子店など出かけたことが継続することができませんでした  (外部評価) 昔馴染みの人や同級生の訪問や近隣の方たちにお会いしたときには、丁寧に声掛けをして関係が途切れないよう支援に努めている。美容院や行きつけの店に行きたいという要望があれば同行するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が中に入って孤立しないように言葉かけをしたり、散歩も一緒に行くように誘ったり、多数で無理のないように行うように支援しています。孤立している時は、出来るだけ寄り添うようにしています	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院等でやむを得ず退居された方も御家族にお会いすると今の様子を聞いたり挨拶したり関係は大切にしています	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 希望を言われる方が少なくなりましたが、利用者の立場に立ったり、把握が困難な方は、利用者の視点に立って考え表情やそぶりで思いや暮らしについて検討しています  (外部評価) 一緒に過ごす中での気づきや、会話を通して一人ひとりの思いや意向の把握に努め、本人本位に検討している。それらを伝達ノートに記録し、職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴を把握した上出来る事、出来ないことを少しでも引き出し伸すようにまた、継続出来るように支援しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の有する能力を發揮できるような場面を作ったり、誉めるようにして意欲を引き出しています。心身状態は、申し送りノート、伝達のノートで把握しています	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のスタッフ会で、意見交換やアイデアを出し合い介護計画を作成している。また、家族には電話等で要望を聞き反影している。毎月1回の評価、見直し現状に即したものにしている	
			(外部評価) アセスメントを基に利用者や家族、職員が話し合ったことを反映した介護計画を立てている。モニタリングやカンファレンスを行い、3か月ごとに現状に即した介護計画を作成し直し家族に報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 入浴の声かけで、拒否なくスムーズに出来た声かけ方法や転倒防止に靴の鈴をつけたりとしたアイデアを個別記録に詳しく記入。本人の視点に立って「こう思われる」などの記録を記入し次に繋げています	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の状態、家族の要望にてマッサージ等必要に応じて取り入れております。今後、ニーズに対応できるように他のサービスを把握して行こうと思います	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 単調になりがちなホームの生活をボランティアを受け入れたり、民生委員さんが関わって下さる事で、変化が生まれる。もっと地域資源を活用していきます	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 希望の整形外科や歯科を受診しています。その他は、 主治医と相談し、御家族の希望を取り入れ通院介助、 受診をしています。</p> <p>(外部評価) 本人や家族の受診希望を尊重し、眼科や心療内科への 受診を職員同行で支援している。受診結果をきちんと ファイルしている。かかりつけ医との関係を築きなが ら、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 1週間に1回看護師が来てくれます。状態変化やわか らない事など相談助言を頂いています。連絡ノートを 作成して職員間で共有しています</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 病院の相談員さんを介して情報を頂いたり看護師に 伺ったりして情報を伝えたり情報交換しています</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 看取りについて主治医を講師に招き勉強会を5月に実 施。ご家族には、ホームで出来る事できないことを伝 え主治医と連携を取りながら取り組みたいと思いま す。またまだ準備不足な点は、あると思います</p> <p>(外部評価) 重度化や終末期について入居時に説明している。詳細 な看取り指針を作成し勉強会を実施しているが、職員 は看取りへの不安を感じている。</p>	<p>看取りの受け入れについて、事業所のできることで できないことを管理者と職員はよく話し合い、事業所の統 一した方針を利用者と家族に説明し、随時確認しなが ら支援に取り組むよう期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) かかりつけ医、消防職員などによる応急手当の仕方、初期対応の訓練を実施している	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災時には、通報装置を押すと、ご近所への自動的に電話がかかるようにしている。ご近所もまじえて、消防署に地震体験車をお願いして実際に体験しました  (外部評価) 年間計画を立て、定められた訓練と合わせて自主的な訓練を2か月毎に実施している。訓練状況を記録して反省会を持ち適切な方法を身につけ、次の訓練に活かせるよう取り組んでいる。緊急連絡先として複数の近隣住民の協力を得ている。飲料水、衛生品など備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入室時声かけしてプライバシーを損ねないように周知しているが時々トイレの戸が少し開いている為注意しあっている  (外部評価) トイレ誘導の声かけ、名前の呼び方など利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう、職員がお互いに気を付け注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 散歩、洋服、おやつ食事など色々な場面で自己決定ができるように声かけしている。言葉で、意識表示できない方は、表情や本人の立場になって考え支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人のペースで自由な暮らしを支援しています。自由に散歩へ行ったり、裏の畑へ野菜の収穫や散歩に行ったりと本人の意思を優先しております	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院へ行く事はできないが美容師に来ていただいてカットしています。出来る範囲で支援しています	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の力量に合わせて食事の準備、調理、盛り付けなど職員と共に行っています。日頃の会話の中から食べたいものを献立に入れるように楽しみを作っています。片付けの手伝いを楽しみながらして下さいます。  (外部評価) 利用者と職員と一緒に食材の買い物に出かけ、利用者の好みを取り入れながら調理している。近隣住民からの頂き物や旬の野菜、家族の差し入れなどを食材とすることもある。利用者と職員がテーブルを囲み、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後プラス2～3回の水分補給を声かけし、夜間は、ペットボトルに白湯を入れいつでも飲めるようにしています。訴えの少ない方に対して水分チェック表を作成し、小まめに対応しています	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、全利用者が歯磨きを行い、不十分な所は、介助し、習慣づけています。夜間は、ポリデントで洗浄しております	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を見ながら、パターンを把握、定期的に早めに声かけを行っています。不十分な所を介助しています	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、リハビリパンツやパッドを利用してトイレでの排泄を支援している。夜間は、睡眠を妨げないよう配慮しながらポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜をたっぷりの食事、果物を取り、散歩や運動をして水分を多くとるように工夫しています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 日曜日を除いた毎日を入浴日として対応しています。毎日入浴している方もおられます。拒否ある方には、あの手、この手で無理なく誘い入浴して頂いています。	
			(外部評価) 日曜日以外の午後2時から4時を基本の入浴時間としている。毎日入浴でき、少なくとも週2回は入浴するよう支援している。入浴の苦手な利用者には、声かけを工夫する等、気持ちよく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 和室を利用して休息を取り、眠れない方には、添い寝をしたりして安心して休めるように支援しています	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変化などその都度伝達ノートに記入したり、薬のファイルを活用して、職員が把握しやすいようにしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 雑巾などの縫い物が得意な方は、毎日縫って頂いて、農業の方は、野菜の収穫など生活歴を活用して楽しみごとを増やしています。それを誉めて引き伸ばすようにしています	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の要望もあり砥部動物園に遠足に家族と共に行きました。普段は、散歩、外食、笹祭り、運動会など外出を行っています。  (外部評価) 日常的には、事業所近辺を散歩をして住民と話したり、広いウッドデッキから景色を眺めながら外気に触れ、お茶を楽しんでいる。また、動物園や笹祭り、運動会、季節ごとの花見などに家族にも参加して貰い、利用者全員が外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人の力量に応じてお金を持っており、買い物や外出時に使用しています。支払いは、見守りしています	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話で話しができるようにスピーカーボタンにして大きくしたり、疎遠の方は、ホームより電話して絆を深めるようにしています	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 春には雛人形、クリスマスにはツリーを飾ったりして季節感を大切にしています。トイレに花を生けたりしています。西日が差し込まないように寒冷遮をしています	
			(外部評価) 共用の空間は窓が大きく、中央にある広いウッドデッキでは四季折々の景色が眺められ、利用者はゆったりとくつろげる。カーテンで光を調節したり室温にも配慮している。季節の生け花や利用者手作りの作品、暮らしぶりの写真などを飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ゆったりとした建物なので、精神的にゆとりが生まれる。また、外の好きな方は、裏の庭の畑のベンチでくつろいでいます	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) なじみの椅子、アルバム、本、写真など使用していた物を持ってきて頂いています。居室に手作りのカレンダーを貼ったりして落ち着けるようにしています	
			(外部評価) 本人の使い慣れた椅子や整理ダンス、時計などが持ち込まれ、家族の写真や手芸品などが飾られており、本人が居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレの表示、ポータブルトイレ、L字型手すりを設置して自立した生活ができるようにしています。居室の表札を利用者全員の名前が一望出来る様に段差をつけたり、目印をつけたりと工夫しております	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700501
法人名	(有)和みの会
事業所名	グループホーム 春のうらら
所在地	愛媛県大洲市新谷乙917番地1
自己評価作成日	平成22年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

神南山の麓に位置する当ホームは、変り行く四季の風景を、五感で感じることができます。開設5年目を迎え、職員同士は、互いに認め合い、共に刺激し合いながら、利用者から、日々学んで成長しています。利用者の変化していく姿を、真正面から受け止め、関りの中から、喜怒哀楽を共有しています。笑い声が、どこからともなく響いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者と共に地域の一員として行事に参加したり、保育園や小・中学校との交流に努め、地域との連携を積極的に図っている。運営推進会議に小学校長や区長の参加を新たに得て、出された意見や要望、アイデアを活かしてサービスの向上に取り組んでいる。災害に備えて訓練を2か月毎に実施し、夜間も含めて様々な想定で避難、防火訓練を行っている。共有空間のウッドデッキは利用者の楽しみとくつろぎの場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 春のうらら

(ユニット名) つくしんぼ

記入者(管理者)  
氏名 篠原美紀

評価完了日 平成 22 年 9 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 立ち上げに作られた理念も3年経ち、もっと短く身近なものにと、スタッフ会で協議し、再構築しました。理念に基づいたサービスの提供に向けて努力している。	
			(外部評価) 職員全員で話し合いを行い、地域密着型サービスの重要性を意識した簡潔な理念を作成している。管理者と職員は、日々、理念を意識して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区の運動会、公民館まつり、また、散歩途中での近所の方との語り等、積極的に交流している。	
			(外部評価) 日常的に散歩や買い物に出かけ、近隣の住民と挨拶を交わしている。地区の運動会や2年おきの公民館祭り、花祭りなど地域の行事に参加し、町内清掃の奉仕に加わっている。また、保育園児の訪問、中学校の職場体験の受け入れや小学校の運動会に招待されるなど、様々な機会を通して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 一昨年に続き第2回文化祭を計画している。秋には、稲荷山のもみじ見物者の行き来が増えるため、気軽にトイレ休憩など、立ち寄っていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 外部からの視点で、貴重な意見や刺激を頂いて実践している。	
			(外部評価) 市の職員や地域住民代表者、利用者、利用者家族、新たに小学校校長と区長の参加を得て、2か月毎に開催している。事業所の現状と課題、外部評価の結果と取り組みを議題に挙げて話し合い、参加者から意見やアイデアを貰ってサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 市の担当者とは、協力関係はできていると思う。異動での新任なので、分ることは、情報交換している。	
			(外部評価) 介護保険申請時に出かけて相談したり、事業所の取組みを伝えている。また急ぎの時は電話で話し協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会などで学習し、身体拘束をしないケアに向けて、取り組んでいるが、万全ではない。	
			(外部評価) 毎月開催のスタッフ会議で勉強会を持ち、禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為について正しく理解している。玄関はセンサーはつけているが施錠しておらず、利用者は自由に散歩に出かけている。必要に応じて職員が付き添うこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 学習会を持ち、学んでいる。認知症に対する理解が不十分であるがゆえに、入居者の周辺症状などに対するストレスが溜まることのないようにしたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 学習会にて、理解を深めるようにしている。機会をみて、家族にも、こんな制度があることを、パンフレット等を同封して、周知していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、時間をかけて説明している。また、報酬改正については、文書を出している。又、家族会の時を利用して、説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 昨年秋に、家族会発足に向けての話し合いを行ったが、代表者が見つからず、発足には至らず。今後も、様々な機会ごとに、家族の意見を汲み取るよう心がけていきたい。	
			(外部評価) 重要事項説明書に苦情申立先を明記し、玄関にご意見箱を設置している。家族を対象に無記名でアンケートを実施して、家族の意向や不安を把握し直接出される要望と併せて運営に反映させている。また、事業所の行事の時にも参加してもらった家族の意見、要望を聞き取る等積極的に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 特に時間はとっていないが、スタッフ会（月1回）の時間を利用して、意見を聞いたり、報告したりしている。</p> <p>(外部評価) 施設長は、毎月開催しているスタッフ会議に出席し職員の意見や提案を聞いている。また、年数回の個人面談で意見や要望を聞く機会を持ち、それらを運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 小さな事業所なので、十分な事はできないが、一人ひとりの個性を見抜き、職員の努力に報いるように努力していきたい。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 国家資格取得～実践者研修～リーダー研修～管理者研修とステップアップを応援している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 日本認知症グループホーム協会、愛媛県グループホーム協会に入会し、研修会に参加したり、市のグループホーム担当者会への参加をし、横のつながりが広がるよう取り組んでいる。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 本人の希望で入居された方は、ほとんどおられない。重く背負った不安や、家族に迷惑をかけられないという思い、それらをうまく伝えられないもどかしさが、少しでも軽くなればという思いで接している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族間でも、それぞれ違った思いがある。何気なくかけた言葉が、御家族を傷つけてしまうこともある。不安や要望をしっかりと受け止めることが、大切であり、その姿勢を忘れてはいけない。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の要望を取り入れ、利用者の立場に立って、一緒に考えている。他のサービスの利用としては、訪問マッサージや、介護タクシーの利用を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 今までできていたことが、だんだんできなくなっていく自分に対して、自信を失わないよう配慮している。場合によっては、他人の力を借りることの大切さを、ありがたいの言葉で伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病気の進行などにより、大切な人の面会が遠のいていくのは、寂しい。状態の変化等は、伝えていき、それを共に受け入れ、一緒に支えていくことを目指している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 時間帯を問わず、知人や友人が気軽に、足を運べるよう配慮している。また、家族や、親しい人をボランティアとして参加していただける企画も行っているが、馴染みの人や場所へ出向く支援は、あまりできていない。  (外部評価) 昔馴染みの人や同級生の訪問や近隣の方たちにお会いしたときには、丁寧に声掛けをして関係が途切れないよう支援に努めている。美容院や行きつけの店に行きたいという要望があれば同行するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) その時々々の気持ちや体調など、汲み取りながら、他者と会話ができるように、話題の提供をしたり、利用者間でのトラブル防止に努めている。また、一人になりたいときは、一人でゆっくりできる時間を、見守っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 病院への見舞いや、葬儀への参列などさせていただいている。別の場所へ移る際は、情報の提供を、わかりやすく正確に伝えるようにしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いや意向をうまく伝えることができない方が多い。できるだけ、表情や、会話の中から察したり、本人の立場に立って取り組むようにしている。	
			(外部評価) 一緒に過ごす中での気づきや、会話を通して一人ひとりの思いや意向の把握に努め、本人本位に検討している。それらを伝達ノートに記録し、職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時、ある程度の情報収集に努め、スタッフ間で共有するようにしているが、いろいろな場面に遭遇して、初めて発見できることもあり、家族も知らない歴史に驚くこともある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一見問題として見られそうなことも、見方を変えれば、長所となる。日々変化している姿を見落とさないように気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者を決め、担当者の気づきや思いを大切にしながら、プラン作りを行っている。担当者は、家族への連絡を行っていく中で、信頼関係の構築にも繋がっている。	
			(外部評価) アセスメントを基に利用者や家族、職員が話し合ったことを反映した介護計画を立てている。モニタリングやカンファレンスを行い、3か月ごとに現状に即した介護計画を作成し直し家族に報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) なぜ記録が大切なのか？スタッフ間で話しあっている。記録は、本人、家族、スタッフ、事業所を守ってくれるものであると。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 訪問マッサージや、介護タクシーの利用が増えている。その他のサービスについては、制度や、金銭的なこともあり、まだ、行っていない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 身近な資源の存在を大切に、今後、関りを増やしていきたいようはたらきかけていきたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) いざという時は、近くの協力医の協力が必要であり、 定期的な往診体制もある事から、全員かかりつけ医か ら移行している。専門医の受診については、引き続き 継続しており、家族との定期的な外出の機会にもなっ ている。</p> <p>(外部評価) 本人や家族の受診希望を尊重し、眼科や心療内科への 受診を職員同行で支援している。受診結果をきちんと ファイルしている。かかりつけ医との関係を築きなが ら、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 非常勤看護師と、週一回の看護師の訪問により支援し ている。訪問看護師には、連絡ノートにより情報の伝 達を行っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 早期受診、早期入院にむけて、早めの対応を心がけて いる。入院の際は、本人や、家族の心配や不安がない よう情報のスムーズな提供を行い、入院中安心して治 療が受けられるようサポートしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化や終末期に向けた方針について、かかりつけ医 にお願いし、勉強会を開いたり、共に、今できること を話し合い、支援に取り組んでいる。いずれ訪れる終 末期がくることを、覚悟しているが、具体的な詰めた 話し合いはまだ、行っていない。</p> <p>(外部評価) 重度化や終末期について入居時に説明している。詳細 な看取り指針を作成し勉強会を実施しているが、職員 は看取りへの不安を感じている。</p>	<p>看取りの受け入れについて、事業所のできることで できないことを管理者と職員はよく話し合い、事業所の統 一した方針を利用者と家族に説明し、随時確認しなが ら支援に取り組むよう期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の職員による救急救命の実践訓練を定期的に行っているが、緊急時に、冷静かつ敏速な対応ができるよう今後も、訓練を重ねていきたい。この人を助けたいという強い思いは、皆持っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) いざという時は、ご近所の協力が大切である。近隣の理解と協力を得られ、緊急時の連絡体制も整った。職員、利用者通じて、喫煙者が数名いる現在、喫煙所の防火意識を高めるため、すぐ間に合う場所の消火器設置と、より安全性の高い灰皿への変更を行う。  (外部評価) 年間計画を立て、定められた訓練と合わせて自主的な訓練を2か月毎に実施している。訓練状況を記録して反省会を持ち適切な方法を身につけ、次の訓練に活かせるよう取り組んでいる。緊急連絡先として複数の近隣住民の協力を得ている。飲料水、衛生品など備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の気持ちを大切に、声かけや対応にいつも気をつけるよう心がけている。特に、排泄や、入浴時には、自尊心に配慮することばかけや、配慮ある行動を忘れないようにしている。  (外部評価) トイレ誘導の声かけ、名前の呼び方など利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう、職員がお互いに気を付け注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話の中から探り出したり、行動に気づき声かけを行っている。大勢の中では伝えにくいことでも、一対一だと伝わることもあり、待つことは、大切な支援であると考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のペースを大切にした支援に心がけているが、入浴や夕食の時間帯は、安全面に配慮し、スタッフの人員体制が手薄にならない時間帯に行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みを重視しながら、洋服を選んだりしているが場合によっては、季節に合った装いなどのアドバイスもさりげなく行っている。いろいろなことが、おっくうにならないよう、髭剃りなどの声かけも行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備段階から関することで、食べる楽しみが増えるよう、利用者の出番作りの場面を大切に支援している。買い物支援がもう少しできるよう機会作りを行っていききたい。	
			(外部評価) 利用者と職員と一緒に食材の買い物に出かけ、利用者の好みを取り入れながら調理している。近隣住民からの頂き物や旬の野菜、家族の差し入れなどを食材とすることもある。利用者と職員がテーブルを囲み、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 今年の夏は、猛暑ということもあり、水分に対する重要性を、皆で認識しあうことができた。今後も食事や水分の量の把握と共に、その人に合った食事の摂り方の工夫を行っていききたい。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔内の清潔保持に努めている。自分の歯が残っている方も多く、仕上げ磨きにも気をつけている。口臭の気になっていた方の改善にも繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中夜間を通して、個別の排泄パターンや、特徴を理解し、気持ちよい排泄に繋がるよう支援している。現存全員、トイレまたはポータブルトイレで排泄されており、オムツ利用者は、ゼロである。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、リハビリパンツやパッドを利用してトイレでの排泄を支援している。夜間は、睡眠を妨げないよう配慮しながらポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜中心の食事や、運動、水分、軟便剤の服用にて、便秘予防に努めている。行きたい時に、排泄できる環境を整えることも大切であると考え、気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望にての入浴は、なかなかできず、勤務上での入浴支援体制であるのが、現状。しかし、入浴時間は、心身の状態の確認や、コミュニケーションの大切な空間であると考えている。	
			(外部評価) 日曜日以外の午後2時から4時を基本の入浴時間としている。毎日入浴でき、少なくとも週2回は入浴するよう支援している。入浴の苦手な利用者には、声かけを工夫する等、気持ちよく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ゆっくり静かに休みたい、誰か傍にいてほしい等の思いを受け止め、安心して休息できるよう配慮している。現在眠前薬服用者は、一名である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) きちんと服薬することの大切さを、職員同士で共有しており、服薬時は、声に出して確認しあいながら、支援し、誤薬防止に努めている。個々の服薬内容等については、全員が正確に把握することは難しいが、病歴や食事との因果関係なども踏まえた、安全な服薬支援を、今後も薬剤師さんの協力を得ながら、行って行きたい。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割割りについては、本人の有する力や、気持ちを汲みながら支援している。タバコを楽しみにされている方には、体調や安全面に充分気をつけて提供している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとり希望に添える外出は、あまりできていない。昨年は、新型インフルエンザの流行、今年は、猛暑と、外出困難な状況下においても、工夫し、今後なお一層本人の思いを大切にしたい支援を可能な限り支援したい。  (外部評価) 日常的には、事業所近辺を散歩をして住民と話したり、広いウッドデッキから景色を眺めながら外気に触れ、お茶を楽しんでいる。また、動物園や笹祭り、運動会、季節ごとの花見などに家族にも参加して貰い、利用者全員が外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことによって「盗られたらどうしよう」という不安が強くなった利用者については、本人、家族と相談し、預かるようになった。そのことで、不安が軽くなり、眠れるようになった。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人自ら電話をかけたり、手紙を出したりはできてないが、電話があったときは、受話器のボリュームを上げたり、居室でゆっくり話せるよう、配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用スペースは、広く、明るく、車椅子での移動もしやすい。また、季節の花や、壁面など、皆の心を和ませている。居室は、生活していく中で、模様替えなど行っている。その人にとって、居心地のいい空間であるようにと、心がけている。	
			(外部評価) 共用の空間は窓が大きく、中央にある広いウッドデッキでは四季折々の景色が眺められ、利用者はゆったりとくつろげる。カーテンで光を調節したり室温にも配慮している。季節の生け花や利用者手作りの作品、暮らしぶりの写真などを飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ひとりになりたいとき、気の合う仲間や家族と過ごしたいときの気持ちを尊重し、支援している。昼食の時間帯にあわせて、家族の面会があり、家族水入らずでのんびり、お昼ご飯を楽しまれている方もおられる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 心身状況の変化に伴い、本来なら安心した生活を誘っていた道具が、本人の不安要因に変わっていく場合もある。常に、そのときの状態の把握を行い、心穏やかに過ごすための配慮を怠らないようにしたい。	
			(外部評価) 本人の使い慣れた椅子や整理ダンス、時計などが持ち込まれ、家族の写真や手芸品などが飾られており、本人が居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の洗面台は、車椅子でも使用でき、トイレ、浴室など、わかりやすく大きな字で、表示してあります。また、バリアフリーになっており、車椅子や歩行でも、移動しやすくできている。また、だれにでも失敗があることを、互いに認め合う関係作りに努めている。	